

会 議 録

会議の名称	第2回 第4期白岡市教育振興基本計画策定委員会
開 催 日	令和8年7月30日（木）
開 催 時 間	午後2時 から 午後5時05分 まで
開 催 場 所	市役所大山庁舎 1階 大会議室
出席者（出席委員）の 氏名・出席者数	石井 宏明、青木 春乃、増田 陽一、明野 真久、増田 政史、 秋道 明子、渡邊 亜希子 出席者： 7名
欠席者（欠席委員）の 氏名・欠席者数	板垣 時夫 欠席者： 1名
説明員の職・氏名	教育総務課主幹 神田 晶子、主事 松本 崇希
事務局職員の職・氏名	教育長 横松 伸二、教育総務課長 高澤 憲司、 教育総務課主幹 神田 晶子、教育総務課 松本 崇希
その他会議出席者の 職・氏名	教育指導課長 増村 歩、教育指導課指導主事 眞中 拓美、 生涯学習課長 岩楯 浩志、生涯学習課課長補佐 島村 哲也、生涯学習課主 査 平山 雅基、魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健、魅力ある学校づく り推進室主査 相子 純一、株式会社社会構想研究所 森 すぐる
傍 聴 者 数	1人
会 議 次 第	別添のとおり
配布資料等	資料1 第4期白岡市教育振興基本計画の概要及び策定の背景について 資料2 第4期白岡市教育振興基本計画策定に係るアンケート調査結果につ いて（報告） 資料3 第3期白岡市教育振興基本計画の取組と課題について 資料4 第4期白岡市教育振興基本計画の基本理念及び施策目標、施策体系 （案）について 資料5 第4期白岡市教育振興基本計画の今後の策定スケジュールについて

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開会 第2回第4期白岡市教育振興基本計画策定委員会の開会を宣言した。
横松教育長	2 挨拶 第4期白岡市教育振興基本計画策定委員会への出席に対し、謝意を表す。
石井委員長	3 会議内容 (1) 第4期白岡市教育振興基本計画の概要及び策定の背景について 事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料1に基づき説明した。
石井委員長	事務局からの説明が終わりました。(1)について、ご質問等がありましたらお願いします。
増田（政史）副委員長	白岡市子ども読書活動推進計画について、これまで独立していた計画を、第4期から教育振興基本計画に組み込むという理解でよいですか。
事務局	お見込みのとおりです。白岡市子ども読書活動推進計画は、第4期教育振興基本計画に統合します。
Q委員	白岡市子ども読書活動推進計画は本計画に盛り込む一方、文化財は施策体系に位置付けながら、第2期白岡市文化財保存活用地域計画を別に策定することですが、両計画を本計画に盛り込んだ方が、内容が充実し、分かりやすくなるのではないのでしょうか。
事務局	白岡市子ども読書活動推進計画は、教育振興基本計画を上位計画とし、そこに掲げる施策の柱との整合を図りながら策定してきました。今回、内容が重複

	する計画を整理するため、対象を子どもだけでなく大人も含めた読書活動へと広げ、教育振興基本計画に統合することとしました。 一方、白岡市文化財保存活用地域計画は、教育振興基本計画と共通する柱があるものの、内容が多岐にわたるため、一本化することは困難であると判断しました。また、文化庁の承認が必要となるなど、策定の手続も異なることから、別の計画として策定します。
石井委員長	ほかにご質問等がありますか。ないようですので、次の内容に移ります。
石井委員長	(2) 第4期白岡市教育振興基本計画策定に係るアンケート調査結果について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料2に基づき説明した。
M委員	問8「より良い学びの環境と相談体制について」の「学校がもっと良くなるために、どのようなことがあればよいですか」という質問に対し、「図書室に読みたい本が増える」との回答が小学生で13%、中学生で8.5%となっています。図書室に読みたい本があることを望んでいる子どもたちがいると分かり、うれしく思いました。 一方、図書購入費が年々減少する中、教科書の単元に関連する本や調べ学習用の本を優先して購入する必要がある、子どもたちが読みたい本まで購入することは予算上難しい状況です。担当校では、PTAや地域団体の廃品回収による収益金を寄附していただき、PTAの承認を得た上で、子どもたちのニーズに応じた本を古書店から安く購入しています。子どもたちの「読みたい」という希望を、さらにはかなえてあげたいと思います。
事務局	学校図書館の図書購入費は、近年減少傾向にあります。アルミ缶の回収などを通じ、地域やPTAの皆様へ学校へ御協力いただいていることは、大変ありがたいことです。こうした活動が広がるよう、教育委員会としても可能な支援を行っていきたいと考えています。

Z 委員	調査結果から、現場として留意すべき点を様々に感じました。まず、「いじめがなく、安心して楽しい時間が過ごせる」ことが小・中学生のいずれでも上位となっているため、児童・生徒が安心して過ごせる学校づくりを一層進めなければならないと感じました。また、「校舎が新しく、トイレがきれいな学校」も小・中学生ともに上位となっています。学校独自の学校評価でも、保護者や生徒から同様の意見が多く、検討が必要な課題であると思います。 小・中学校の連携に関する保護者調査では、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせても40%に満たない結果となっています。この割合を高めるため、小中連携をさらに強化する必要があります。白岡市では学校運営協議会の整備が進み、今年度から各協議会間の横のつながりを強化する取組も始まっています。こうした動きを生かし、市全体で連携して、小中一貫教育をより多くの市民に浸透させていきたいと考えます。 また、私は英語科の教員ですが、「学校で楽しみな授業や活動は何ですか」という質問に対し、英語の割合が低いと感じました。姉妹都市との交流による中学生の派遣や英語検定料の補助なども考えられます。市内では今後、外国人住民が増えることも想定されるため、この面からも取組を検討してはどうかと思います。
事務局	学校の校舎には昭和期に建設されたものが多く、トイレもタイル張りの湿式で、衛生面では乾式に比べて課題があります。このことが、子どもたちがトイレを利用しづらいと感じる一因になっています。臭いについては清掃などで対応していますが、限界もあるため、直ちに実施できる対策を進めるとともに、将来的には大規模改修を含めた根本的な改善を検討していきたいと考えています。
事務局（教育指導課長）	1点目の「いじめがなく、安心して楽しい時間が過ごせる」ことについて、教育委員会は学校現場に任せきりにするのではなく、学校と常に連携し、児童・生徒が安心・安全に学校生活を送れるようにする責任を担っています。今後も継続的に連携し、いじめゼロの白岡市を目指します。

	2点目の英語の評価が低かった点については、様々な情報を収集し、学校と連携しながら、評価の向上につながる取組を検討・推進していきます。 3点目の小中連携について、白岡市では、一つの小学校から一つの中学校へ進学するケースが多いという特徴があります。この点を生かし、教育委員会が小・中学校の連携を進め、小学校を卒業した子どもたちが安心して地域の中学校に通学できる環境を整えていきたいと考えています。
増田（政史）副委員長	保護者調査の「子どもの教育について不安を感じたとき、誰に相談するか」という質問では、「家族・親族」が80%であるのに対し、「学校の先生」は42.6%となっています。学校の先生以外では、家族・親族、友人、他の保護者への相談が圧倒的に多いようです。私の世代では、学校の先生を信頼して様々な相談をしていたように思いますが、現在はこのような状況なのでしょうか。
B委員	小学校長として感じるのは、校内のことであっても、まず担任や学校に直接聞くのではなく、家族や友人に一般的な状況を尋ねたり、「このように言われたが、どう思うか」「うちの子の場合はどうなのか」と情報を集めたりすることが多いということです。そのため、「家族・親族」や「友人」という回答が多いのではないのでしょうか。3番目に「学校の先生」が入っていることから、学校に相談してみようという思いも残っていると感じます。
L委員	現在は保護者同士がSNSなどでつながっているため、まずそこで相談し、情報を集めたり交換したりした後に、先生へ相談するという順番が多いのではないかと感じます。
石井委員長	ほかにご質問等がありますか。ないようですので、次の内容に移ります。
石井委員長	（3）第3期白岡市教育振興基本計画の取組と課題について 施策目標1 家庭・地域の教育力の向上について 事務局から説明をお願いいたします。

事務局	資料３に基づき説明した。
X 委員	放課後子ども教室について、菁莪小学校で開始した際に声を掛けていただき、関わりました。初めての取組で大掛かりなことも行いましたが、継続していくには、人手や手間をどうするか、担い手をどう確保するかなどの課題があります。他の地域の良いアイデアや取組を共有できれば、運営の負担軽減や事業の継続・拡大につながるのではないのでしょうか。
事務局	放課後子ども教室の「継続・拡大」は、実施校を増やすという趣旨です。継続については、地域の方々が運営を担うことが国の方針となっています。昨年度、篠津小学校で新たに取り組んだ際には、他校の取組を調べながら実施しました。他の取組を実際に見学し、情報を共有することは、事業を円滑に立ち上げる上で有効であると考えます。今後もサポーターやコーディネーターの方々に声を掛け、ボランティアなど関わる方を少しずつ増やしていきたいと考えています。
D 委員	施策目標１（２）の家庭・地域・学校の連携については、全体に関わる課題だと思います。放課後子ども教室のほか、学校応援団やボランティア団体による読み聞かせ、施策項目（４）の学校応援団や地域人材、児童・生徒が安心して通学できる環境における子ども１１０番やスクールガード・リーダーなど、ボランティアの確保・育成を課題としている取組が多くあります。これらをまとめ、ボランティアの確保・育成を一つの大きな項目として位置付けることはできないのでしょうか。
事務局	検討します。
増田（政史）副委員長	数年前、南中学校の生徒とのワークショップを行い、私から現状を説明した上で、生徒の皆さんと様々な意見交換をしました。その中で、率直で貴重な意見や、親として、大人として考えなければならない課題が示されました。

	放課後子ども教室をはじめとする取組でも、子どもたちが自分の考えや意見を十分に発言できるようにすれば、計画や企画がさらに深みのあるものになるのではないかと考えます。
事務局	ボランティアや子どもの意見に関する御意見は、施策目標１だけでなく、計画全体に関わるものです。改めて整理し、次年度への反映を検討します。
事務局	施策目標２ 学校教育の充実について 資料３に基づき説明した。
F委員	施策目標を見ると、家庭・地域・学校の連携や一体的な取組という言葉が多くある一方、学校と家庭とのつながりには十分触れていません。ＰＴＡや学校運営協議会に関わる中で、学校行事に参加できない保護者や、ＳＮＳなどの情報から極端な意見を持つ方もいると感じます。学校と家庭、保護者との関係が良好でなければ、教職員も対応に苦慮するのではないのでしょうか。 教員が充実させたい研修内容では「保護者対応」が４番目となっており、教員が保護者対応に悩み、本来の教育活動以外の対応に追われて疲弊している現状があると思います。スクールカウンセラーなどの専門職を拡充し、精神面の支援や相談体制を強化する必要があるのではないのでしょうか。保護者と教員の信頼関係をどのように築いていくかが重要です。 また、本策定委員会に保護者やＰＴＡ関係者の枠がないことにも違和感があります。教員と保護者が良好な関係を築くことが、子どもの学校生活への安心感につながります。デジタルを活用したコミュニケーションも含め、教員と保護者の信頼醸成や連携を促す具体的な文言や施策を追加してはどうでしょうか。
事務局	学校と保護者の関係という視点が不足していた点については、整理の上、次回の資料に反映します。

横松教育長	P T Aの在り方については、近年、様々な意見があり、方向性に揺らぎが生じているのではないかと思います。P T Aは学校とは独立した団体であり、教育委員会が運営を管理するものではありませんが、地域との連携に加え、保護者との連携も学校にとって重要であるため、検討します。
石井委員長	F 委員の御意見を踏まえ、保護者との連携という趣旨で、例えばパブリックコメントの時期に保護者からも意見を伺う方法などが考えられます。事務局で検討をお願いします。
K 委員	家庭・地域・学校の連携では、田んぼの学校、放課後子ども教室、学校園などの取組とその課題が示され、その下に対応する指標が掲げられています。また、1人1台端末の活用については、教職員研修を充実させたものの、教職員間の能力差を縮小する必要があるとされています。学校長の立場からは、各学校だけでは対応が難しいため、市を挙げた研修の場が必要だと考えます。研修の対象、回数、方法など、市としての研修の在り方や目標を指標に位置付けていただきたいと思います。 児童・生徒へのアンケートで「学校で楽しみなこと」を尋ねると、小・中学生ともに休み時間が最も多く、次いで給食やクラブ活動となり、授業は上位にありません。校長として、この結果を重く受け止めています。「授業が面白いから学校が楽しい」となるよう、教育委員会による研修機会を充実させる必要があります。教職員研修の在り方、回数、目標を示し、その成果を児童・生徒の学力の維持・向上などによって測ることも考えられます。 また、ボランティアが活動中に事故に遭った場合、市の保険が適用されるかが明確ではありません。ボランティア活動を充実させるのであれば、保険について整理する必要があります。募集も各学校だけで行うのではなく、市が広く呼び掛け、様々な活動に関われる仕組みを設けるという視点で指標を検討していただきたいと思います。
事務局	今回は第3期計画の振り返りとして、取組に対する課題を抽出しました。本日いただいた御意見は、素案の作成に向けて検討します。次回、素案を御確認

事務局	いただき、可能な限り御意見を反映させたいと考えています。また、計画の内容については、毎年度、指標に基づいて評価する形で進めていきます。 ボランティア保険について、朝の一斉指導や交通指導員などを含め、活動中に負傷した場合に適用できる市の保険の取扱いは、現時点では確認が必要です。担当課と情報を共有し、校長先生方に正確に御案内できる状況になりましたら、改めてお知らせしますので、少しお時間をいただきたいと思います。
E委員	指標を作成する際は、市全体で関係者が関わってほしいと思います。教職員の働き方改革では中学校の負担軽減が掲げられていますが、実際には、小学校教員は空き時間が少なく、負担が大きい状況です。中学校は教科担任制や学年内の分担で対応できますが、小学校は学級担任が一日を通して授業を担当するため、小学校の負担軽減策も十分に議論する必要があります。 対策として、補助員や教員業務支援員を増やすこと、県費で賄えない場合には、市独自に教職員を支援する人材を配置することなどが必要ではないでしょうか。また、小学校でも教科担任制を部分的に導入し、教員の得意分野を生かして負担を分散することも考えられます。外部人材や外部資金の活用も含め、小・中学校双方の実情を踏まえた働き方改革を進めていただきたいと思います。
石井委員長	国及び県の教育振興基本計画には、「誰一人取り残されない」という考え方が示されています。本計画にも、多様なニーズに対応する視点を盛り込んでいただきたいと思います。次期学習指導要領に向けた国の検討でも重視されている視点であるため、検討をお願いします。
S委員	課題の上から2番目に「情報活用能力、情報モラル教育の充実を図るため」とありますが、情報リテラシー教育も重要です。多くの子どもたちがSNSなどに触れている以上、情報が正しいかどうかを判断する知識も必要であるため、この視点を加えていただきたいと思います。

	5ページの「豊かな心や健やかな体の育成」について、保護者アンケートでは「社会性や規範意識の育成」が52.7%と高く評価されています。図書館は、子どもが公共性を学ぶ場として、幼少期から重要です。読書は国語力の向上だけでなく、物語の世界に触れることで、想像力、他者への配慮、先を見通す力など、生きる力を育み、思いやりや社会性の涵養にもつながると考えます。一方、図書館の利用には家庭の支援が必要な面もあります。小学校入学時に図書利用者カードを全員に配布するなど、図書館へ行くきっかけをつくる施策も考えられます。 教職員の資質向上については、多くの教職員が多忙を感じています。ICT化による負担軽減を実感している教職員もいる一方、依然として業務過多は深刻です。授業や児童・生徒への対応時間を削ることは望ましくないため、地域や市との間で行われる形式的なやり取りなどに、削減できる業務がないかを検討する視点が必要です。業務内容の見直しや働き方改革を具体的に進め、教職員の負担軽減につなげていただきたいと思います。 施策目標3 社会教育の充実について
事務局	資料3に基づき説明した。
V委員	図書館の読書推進施策の一つに「こども司書」があります。本が好きな子どもたちが学校図書館と連携して参加していますが、現在は小学生までの活動となり、中学生になると参加の機会がなくなるため、継続して参加できる仕組みが望ましいと思います。また、県内で実施されているビブリオバトルのような本の紹介大会について、子どもから参加したいとの希望を聞きました。白岡市では予選などの機会がないため、市が仕組みを設ければ、中学生が受験時に活動実績を示す機会にもなり、有益ではないでしょうか。「こども司書」の取組が地域の読書意欲を育てていることを評価しつつ、中学生にも広げていただきたいと思います。 読み聞かせボランティアについては、長年活動してきた団体で高齢化が進み、交通手段を失うなどして活動を縮小する方がいる一方、保護者も就業などにより参加が難しく、担い手が不足しています。市が積極的に募集・育成・周

	知し、学校や地域に出向いて読み聞かせができるよう支援する必要があると思います。市が公的に呼び掛けることで、関心があっても情報が届いていない方や、自ら申し出にくい方の参加を促し、既存団体への過度な依存による活動の先細りを防いでいただきたいと思います。 また、生涯学習センター〔こもれびの森〕が指定管理者制度へ移行するため、学校に対する図書等の団体貸出しのルールを明確に整備する必要があります。現在は市を通じて借用手続きをしていますが、申請が直前になることが多く、対応が難しくなる場合があります。管理主体の変更後も円滑に利用できるよう、余裕を持って申請できる方法や明確なルールを整えてはどうでしょうか。
事務局	夏に予定しているこども司書講座は、小学校４年生から６年生までを対象とし、講座終了後も毎月活動日を設けています。年齢制限は設けていませんが、中学生になると部活動などで忙しくなり、参加が減るのが現状です。ビブリオバトルは、市単位での開催実績がなく、認知度も低いため、図書館職員が学校で行うブックトークの一環として体験する機会を設けていますが、市全体での開催には至っていません。県のビブリオバトルは、地域ごとに午前中に予選、午後に本選を行うなどの方法で開催されており、県立図書館の案内では個人で申し込む形式となっています。 読み聞かせボランティアについては、長年活動してきた方の多くが活動の継続を難しく感じており、危機感を持っています。図書館ボランティアを体験する講座を実施し、読み聞かせや配架などを体験していただいた上で、ボランティア団体を紹介し、参加を呼び掛けています。 指定管理者制度への移行については、１０月の開始に向け、本格的な引継ぎを始めています。学校図書館の担当者から不安の声もあるため、早めに取り扱いを通知し、周知します。
Ｈ委員	従来の白岡市子ども読書活動推進計画は、目標、優先度、対象者などを細かく定めた冊子で、読み聞かせ会、イベント、学校・幼稚園・地域との連携など、具体的な取組が詳細に記載されていました。

	教育振興基本計画への統合により、これらの具体的な取組がわずかな文章にまとめられる可能性があります。新旧の施策体系を比較しても、白岡市子ども読書活動推進計画がどこに加わったのかが分かりにくく、「統合」という名目で計画が実質的に失われることを懸念しています。
事務局	白岡市子ども読書活動推進計画では、事業の柱と、それぞれの柱における具体的な取組を示していました。教育振興基本計画への統合後は、実施回数などの細部までは記載しない形になります。 教育振興基本計画には、取組の基本方針や方向性を記載します。その上で、学年ごとの設定や短期間における各事業の目標などを別に定め、進捗を確認することを考えています。これらは5年間の計画に固定して掲載するのではなく、その時々状況や実情に応じて設定する方がよいと考えています。
R委員	第3期計画を見ても、全ての施策項目に成果指標が設定されているわけではありません。一方、市の総合振興計画では、全ての施策に成果指標が示されています。第4期計画では、全ての施策項目に指標を設定する考えでしょうか。
事務局	全ての施策項目について、成果指標を設定する方向で検討します。
事務局	事務局から欠席者の意見について説明する。
N委員（書面意見）	ボランティアについて、私自身も講師を務めた経験がありますが、アンケートでも講座に関する情報提供の充実が求められ、参加者の固定化も課題となっています。広報しらおかによる周知からスマートフォンを中心とした情報提供に移行すると、もともと関心のない新たな層には情報が届きにくくなる懸念があります。情報発信の充実を明確に位置付けていただきたいと思います。 文化財については、専門人材の確保が今後の活動を推進する要となります。専門性を有する職員の確保と育成に十分配慮するとともに、市民ボランティアの育成も進めていただきたいと思います。また、情報発信についても工夫をお願いします。
石井委員長	

	ほかにご質問等はありませんか。ないようですので、次の内容に移ります。 (4) 第4期白岡市教育振興基本計画の基本理念及び施策目標、施策体系(案)について
石井委員長	事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料4に基づき説明した。
Y委員	義務教育9年間を通した小中連携教育の強化と、学校の適正規模・適正配置の推進が、第4期計画に向けた主な方向性になるとのことですが、少子高齢化の進行を踏まえ、適正規模・適正配置の方向性が前面に出てきていると感じます。市には様々な審議会がありますが、相互に情報共有するなど、横のつながりはあるのでしょうか。 また、白岡市への移住を検討する際には、教育環境が判断基準の一つになると考えられます。白岡市の学校教育の特色や独自性を表現していく必要があるのではないのでしょうか。
事務局	副市長は情報共有を重視しており、幹部職員が毎週情報を共有する機会を設けています。また、職員が市政情報を常に確認できる体制を整えているほか、LINEやチャットなどの活用も進めています。
事務局	第6次白岡市総合振興計画の見直しに当たっては、教育環境や住環境などについても審議会で議論しています。
	(5) 第4期白岡市教育振興基本計画の今後の策定スケジュールについて
委員一同	質疑なし。
事務局	4 その他 7月25日及び26日に開催した魅力ある学校づくり説明会について説明した。

委員一同	次回の委員会を９月２４日に開催する旨を伝達した。 委員の皆さまから何かございますか。
事務局	５ 閉会 第２回第４期白岡市教育振興基本計画策定委員会の閉会を宣言した。